

第4期天草市栖本地域まちづくり計画

～みんなが主役!絆深まるまちづくり～

「ずっと、もっと!すもと」

天草市 栖本地域

制 定 日	令和8年3月11日
改 正 日	

第4期天草市栖本地域まちづくり計画 目次

1	計画のあらまし	1
1.1	計画策定の趣旨	1
1.2	計画の性格	1
1.3	計画の期間	1
2	栖本地域の概要	2～5
2.1	位置・地勢	2
2.2	面積・土地利用	3
2.3	人口・世帯数	3～5
3	めざす姿	6～8
3.1	めざす姿をどのように実現に近づけるか	7
3.2	取り組みによって解決が期待される課題	8
4	計画の推進体制	9
4.1	実施	9
4.2	評価・改善	9
5	地域別計画	10～12
5.1	栖本地区振興計画	10～12

1 計画のあらまし

1.1 計画策定の趣旨

平成18年3月27日、2市8町が合併して天草市が誕生しました。市内各地域には、素晴らしい自然や独自の文化や歴史、豊かな農林水産資源、さらには、日々の生活で育まれた相互扶助の精神など、全国に誇れる地域資源が数多くあります。

しかしながら、今日、本市においては、人口減少や過疎地域の増加、少子高齢化や地域の担い手不足などにより、継続した地域活動やコミュニティの維持が懸念されています。そのような中、地域における人々のつながりや、共助による活動の推進、また、一人ひとりが地域に対する愛着や誇りを持つことが、持続可能なコミュニティの形成につながります。

まちづくりに関する施策を効果的・効率的に推進するためには、地域住民と行政が一体となって、体系的・計画的に取り組む必要があるため、本地域のまちづくりの指針となる「天草市栖本地域まちづくり計画」を策定し、「未来へ続く魅力ある地域づくり」を推進し、その実現を目指すものです。

今回、第3期天草市栖本地域まちづくり計画を検証し、地域の課題等を再確認するとともに内容の見直しを行いました。

1.2 計画の性格

本計画は、次のような性格を持っています。

- ① 長期的・総合的な視点から、本地域が目指す今後のまちづくりの基本的な方向を示しています。
- ② 本市が策定する「第3次天草市総合計画基本計画」と方向性を共有しながら、地域が主体となって策定する計画として策定します。
- ③ 本地域の地域住民や行政機関のみならず、まちづくり関係団体、企業、学校など、地域全体でまちづくりに取り組む方向性を示しています。

1.3 計画の期間

本計画の期間は、令和8年度から令和11年度までの4年間です。

また、実現すべき施策目標を設定するとともに、その施策目標を達成するために必要な計画を示したものです。

2.2 面積・土地利用

本地域の総面積は32.89km²で、市面積の4.8%となっています。土地利用については、全体の約87%を農地山林で占めており、宅地道路用地については全体の約6%となっています。

表1 栖本地域土地面積（2018（平成30）年10月1日現在）

	栖本地域	天草市
面積（km ² ）	32.89	683.87
割合（%）	4.8	100

（国土地理院九州地方測量部）

2.3 人口・世帯数

人口については表2のとおり減少の一途をたどり、2005（平成17）年から2020（令和2）年までの推移で828人、29.6%の減となっております。

これは、出生児数の低下と若年者の都市部への進学・就職はもとより、天草市合併により中心部である本渡地域への移住も要因と考えられます。

また、表3のとおり高齢者の占める割合も増加しており、2005（平成17）年の35.2%に対して、2020（令和2）年は47.6%となっております。

表2 栖本地域の人口・世帯数の推移

区 分	2005（平成17）年	2010（平成22）年	2015（平成27）年	2020（令和2）年
人口（人）	2,794	2,489	2,158	1,966
世帯数（世帯）	869	825	778	749
世帯当たり人員（人）	3.22	3.02	2.77	2.62

（国勢調査）

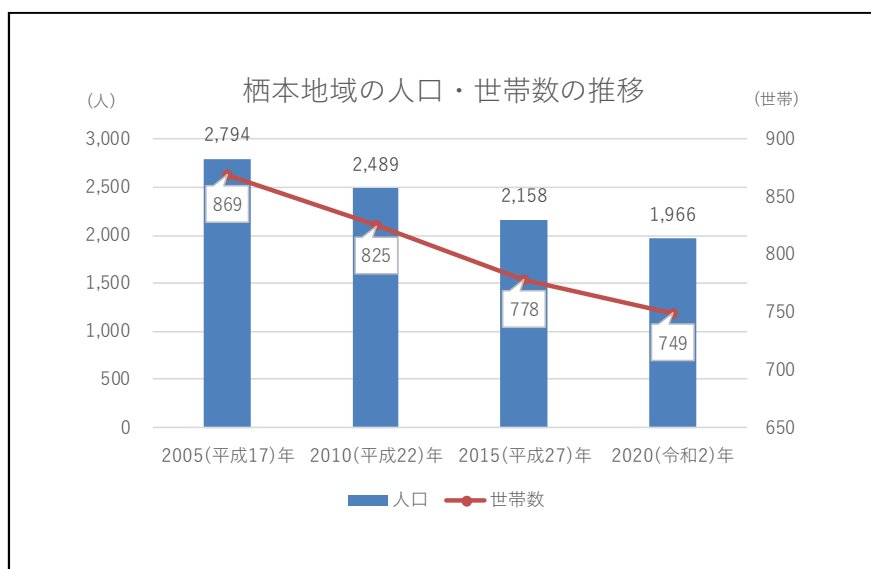


表3 栖本地域の人口・年齢階層人口の推移

区 分	2005(平成17)年		2010(平成22)年		2015(平成27)年		2020(令和2)年	
	人口 (人)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)
総人口	2,794	100.0	2,489	100.0	2,158	100.0	1,966	100.0
0～14歳	379	13.6	306	12.3	219	10.1	176	9.0
15～64歳	1,432	51.3	1,209	48.6	979	45.4	853	43.4
65歳以上	983	35.2	974	39.1	960	44.5	937	47.6

(国勢調査)

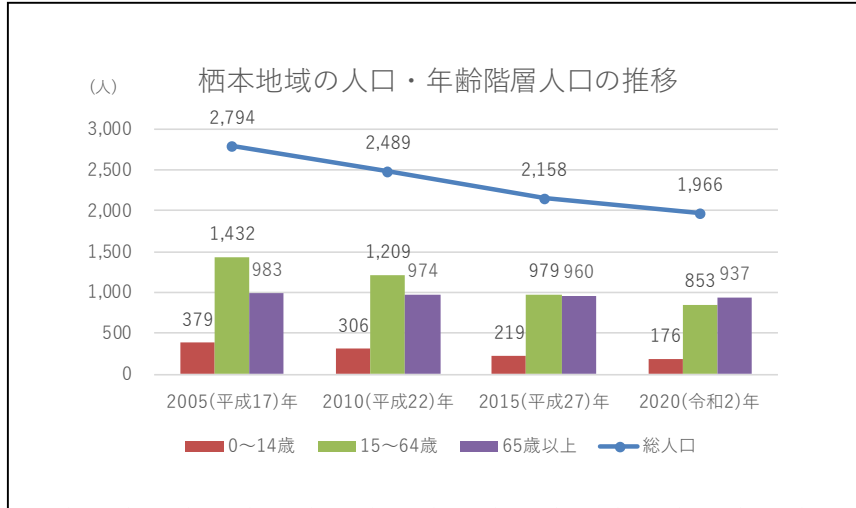


表4 栖本地域の産業別就業者数の推移

区 分	2005(平成17)年		2010(平成22)年		2015(平成27)年		2020(令和2)年	
	人口 (人)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)
就業人口総数	1,223	100.0	1,058	100.0	984	100.0	901	100.0
第1次産業	276	22.6	253	23.9	211	21.4	157	17.4
第2次産業	329	26.9	223	21.1	216	22.0	208	23.1
第3次産業	618	50.5	576	54.4	557	56.6	536	59.5

(国勢調査)

※就業人口総数には産業分類不能者を含むため、産業別就業者数の合計とは一致しません。

※第1次産業（農・林・漁業）、第2次産業（鉱・建設・製造業）、第3次産業（運輸・小売・金融・サービス業・公務等）

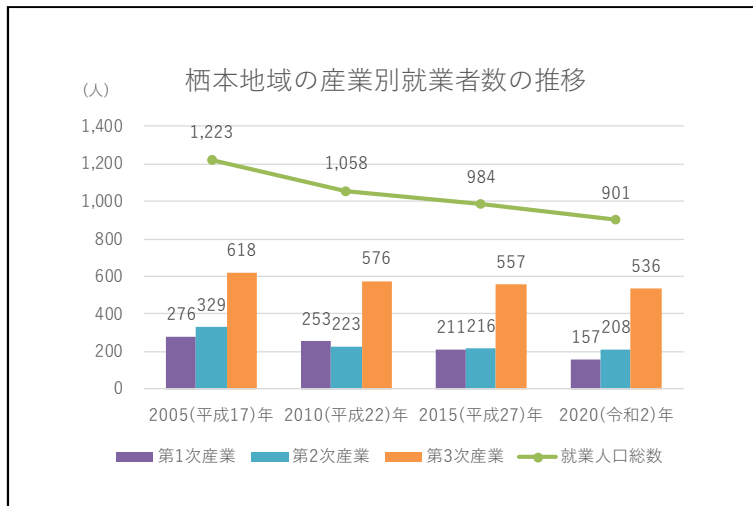
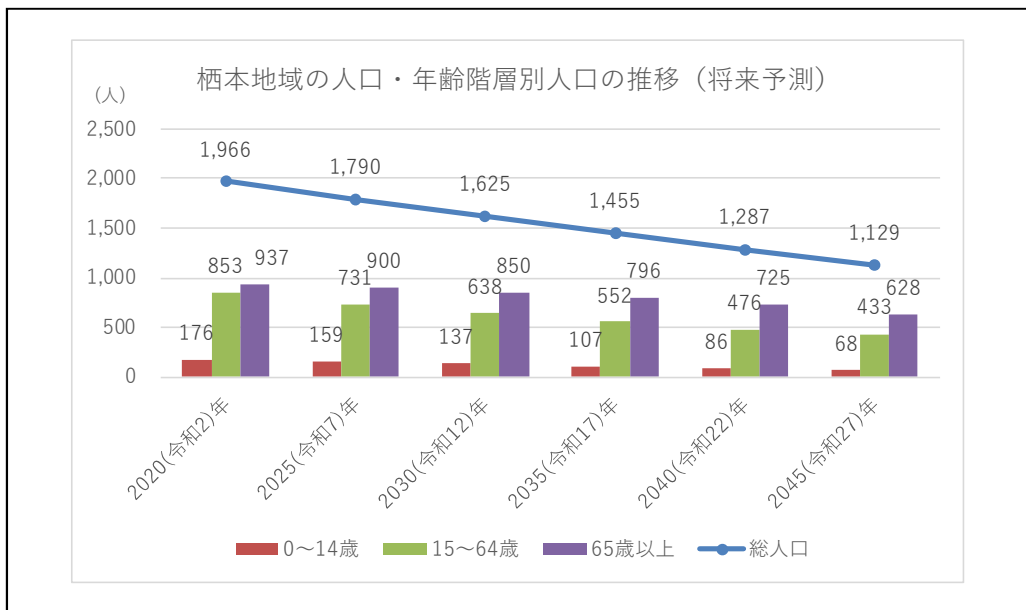


表5 栖本地域の人口・年齢階層別人口の推移（将来予測）

区 分	2020(令和2)年		2025(令和7)年		2030(令和12)年	
	人口 (人)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)
総人口	1,966	—	1,790	—	1,625	—
0～14歳	176	9.0	159	8.9	137	8.4
15～64歳	853	43.4	731	40.8	638	39.3
65歳以上	937	47.7	900	50.3	850	52.3
区 分	2035(令和17)年		2040(令和22)年		2045(令和27)年	
	人口 (人)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)	人口 (人)	比率 (%)
総人口	1,455	—	1,287	—	1,129	—
0～14歳	107	7.4	86	6.7	68	6.0
15～64歳	552	37.9	476	37.0	433	38.4
65歳以上	796	54.7	725	56.3	628	55.6

(2020年：国勢調査、2025年～2045年：市政企画課)

※2010(平成22)年から2020(令和2)年の国勢調査の人口推移を基に、コーホート変化率法を用いて2025年から2045年までの将来予測人口を算出。



3 めざす姿

『 ずっと、もっと！すもと 』

～～選ばれる町になるために。栖本らしさを、ずっと、もっと～～

ずっと…栖本町の良さが変わらずあり続けるように、守る

もっと…栖本町の良さを磨き、際立たせ、表に出す

栖本町の住民は、子どもから高齢者まで、口を揃えてこう言います。栖本町は「暮らしやすい」「誇れる伝統文化がある」「子どもが素直でかわいい」「平和」「自然環境が良い」「美味しいものがたくさんある」「人がやさしい町」だと。

先人たちが大切に守り、受け継いできた本当の田舎の暮らしぶり。そして、かっぱ伝説が今も息づく、この栖本町。ここに暮らす人たちは、この町のありのままの姿が、もともと”ずっと”好きなのです。

一方で、人口減少や高齢化により、これまでと同じ規模や内容のまちづくり事業を続けていくことは難しくなってきました。「何か手を打たなければならない」という思いを、誰もが感じています。しかしそのために、町を大きく変えることや、誰彼かまわず多くの人に訪れてもらうことは、望んでいません。

栖本町らしさを”ずっと”大切に守り続けたい。その上で、この町の魅力を”もっと”知ってもらい、”もっと”共感してくれるファンを増やしたい。その結果として、住む町としても、訪れる町としても、そして産品や産業においても、栖本町ならではの価値が正しく伝わり、選ばれる町となりたい。そのための力と可能性は、すでに栖本町の中にあると感じます。

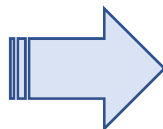
この思いをかたちにして、笑顔の花が”ずっと” ”もっと” 咲き続ける栖本町をつくります。

3-1 めざす姿をどのように実現に近づけるか

“ずっと”（守る）

① 住み良い町であり続けたい！

- スポーツイベントの継続
- 敬老会・高齢者学級の継続
- 防災訓練の継続

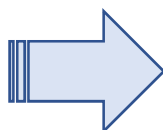


【4年後のめざす姿】

- 地域のつながり強化
- 元気に暮らす人の増加
- 災害時に機能する地域

② 河内川などの環境を守り続けたい！

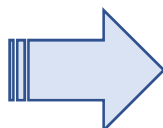
- 河川清掃活動の継続とオープン化
- 豊かな水環境（恩恵）をアピール



- 変わらない自然環境の持続
- 町内プラス町外参加者の増加
- 振興会事業の活性化

③ 誇りの伝統芸能を受け継ぎたい！

- 栖本太鼓踊り等の映像を制作、公開

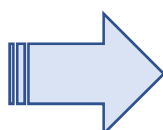


- 例大祭観客の増加
- 栖本太鼓踊り等の認知度向上
- 青年団員、継承者の増加

“もっと”（強める）

④ 住みたい（選ばれる）町にしたい！

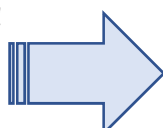
- 良好な住環境のPR
- 移住定住相談に対応する窓口設置
- 移住体験施設の創設



- 移住体験や問合せの増加
- 移住者の増加

⑤ 町の資源を活かした名物を育てたい！

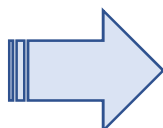
- 既存商品の磨き上げと販促支援
- 新規商品の開発と販促支援
- 「すもとのもの」（栖本産品）PR



- 「すもとのもの」（栖本産品）の増加
- 町の名物が誕生
- 事業者の増加
- 売上の増加

⑥ 来訪者を増やしたい！

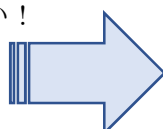
- 町内にある史跡等を巡るルート設定
- 温泉を拠点にした祭り等を継続
- ウォークイベントを継続
- 栖本温泉のPRと活用
- 町の産品・催し・名所等のSNS情報発信



- 栖本温泉や宿泊施設への誘客増加
- 町内飲食店等の来客増加
- 町外からの来客増加
- 地域全体の賑わい増加

⑦ 栖本温泉をまちづくりの拠点にしたい！

- 「すもとのもの」（栖本産品）を販売
- テーマ設定した催事を実施



- 産品の販路創出
- 栖本温泉の賑わい創出
- 町内外の来訪者が増加

3-2 3-1 の取組によって解決が期待される課題

- ①の「住み良い町であり続けたい！」の取組によって、今後も含めて課題である地域のつながりの希薄化が解決される。
理由：地区や世代間、地域間の交流により、顔の見える繋がりや安心感が生まれるため。

- ②の「河内川などの環境を守り続けたい！」の取組によって、課題である人口減少に伴う賛同者の減少が解決される。
理由：町内のみならず町外者で環境への関心が高い人まで清掃活動などに参加してもらうことで、自然環境の持続が見込まれるため。

- ③の「誇りの伝統芸能を受け継ぎたい！」の取組によって、課題である伝統を継承する担い手の減少が解決される。
理由：ドキュメンタリー映像で町固有の伝統芸能の誇りや素晴らしさが伝わり、再評価されることで、青年団への入団増加が見込まれるため。

- ④の「住みたい（選ばれる）町にしたい！」の取組によって、課題である人口減少の加速が解決される。
理由：潜在的な移住検討者に、栖本町の住み良さが伝わり、相談や体験を促し交流することで、移住先として検討され、選ばれる町になることが期待できるため。

- ⑤の「町の資源を活かした名物を育てたい！」の取組によって、課題である栖本独自の商品等の少なさや、製品の認知度の低さが解決される。
理由：既存商品の磨き上げ、新商品の開発等により、名物予備軍商品が増加し、それらをPRすることで認知度が高まるため。

- ⑥の「来訪者を増やしたい！」の取組によって、課題である町への来訪者と地域の賑わいの減少が解決される。
理由：来訪の目的となりうる機会をひらき、情報を発信することで、潜在的な関心層が訪れてくれるため。

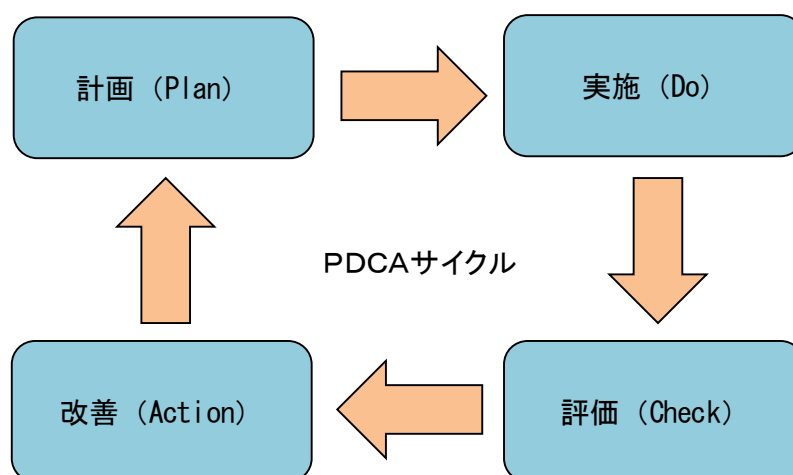
- ⑦の「栖本温泉をまちづくりの拠点にしたい！」の取組によって、課題である産品や土産品の販売場所と機会の少なさ、町外から見た来訪目的施設の魅力の弱さが解決される。
理由：施設特有の場や機能をまちづくりと連携して活用することで、販売機会や賑わいが生まれ、地域の特色ある施設となるため。

4 計画の推進体制

本計画の推進体制については、栖本まちづくり協議会を中心に関係団体及び行政と連携し推進するとともに、進捗状況及び目標の達成度等を年度毎に把握・評価を行い、地域情勢及び社会情勢の変化等も勘案し、必要に応じて計画の内容の見直しを行います。

その手法として、計画（Plan）、実施（Do）、評価（Check）、改善（Action）を繰り返すPDCAサイクルを用いて、継続的に計画を改善していきます。

図3 天草市栖本地域まちづくり計画の評価・見直し（PDCAサイクル）



4.1 実施

本計画に基づく施策の実施にあたっては、各実施主体を中心に栖本まちづくり協議会、関係団体及び行政と連携し実施します。また、必要に応じて実行委員会を設置し施策の推進を図ります。

4.2 評価・改善

本計画に基づく施策の実施状況等については、毎年度1回以上栖本まちづくり協議会で評価を行うとともに、社会環境・地域環境の変化等も勘案し、必要に応じて計画の内容を見直します。

地区の概要(R2国勢調査参考)			<p style="text-align: center;">栖本太鼓踊り</p> <p>正保2（1645）年に建立された栖本諏訪神社に奉納される太鼓踊りは、昭和55年3月3日に熊本県の重要無形民俗文化財に指定されています。</p> <p>民俗芸能として、毎年10月の第3日曜に河内神社秋祭りで、また11月の第2日曜に栖本諏訪神社例大祭にて披露されています。</p> <p>現在は、郷土の遺産として町青年団により継承されています。</p>
面積(km ²)	32.9km ²		
人口(人)	総人口		1,966人
	15歳未満		176人
	15～64歳		853人
	65歳以上		937人
高齢化率(%)	47.7%		
就業人口(人)	第1次産業		157人
	第2次産業		208人
	第3次産業		536人
世帯数(世帯)	総世帯数	749世帯	
	高齢単身者	147世帯	
行政区数(区)	12区		
学校	栖本小学校 1、栖本中学校 1		
文化財・史跡	<p>【文化財】 利明寺の梵鐘（県指定重要文化財） 栖本諏訪神社、栖本城跡 沖の瀬古墳群、小ヶ倉観音磨崖碑 法界平等碑、仏日山円性寺及栖本郡代所跡</p>	<p>【史跡】 年神社 古江弁財天 水元大明神</p>	
その他地域資源	栖本温泉センター、河内川、倉岳山頂・カヤツ丸展望台 かっぱ街道及び河童像、油すましの墓		
地域伝統芸能	栖本太鼓踊り（県指定重要無形民俗文化財）、栖本獅子舞、立笠・台笠（通称：とったかところせい）、栖本諏訪神社例大祭、河内神社秋祭り、いげ神社祭り、小ヶ倉観音祭り		
地域づくり団体			
地区のいいところ・自慢できるところ			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人柄がよく人情があり、繋がりが深いため、地域コミュニティが継承されている。 ・ 各種サービス施設（店、病院、福祉施設等）が町の中心部に充実し、また海山川にも恵まれており生活しやすい。さらに、市の中心部である本渡地区にも近い。 ・ 町中心部にホテルも飛び交う清流「河内川」が流れ、町水道水・農業用水として使われている。 ・ 地域資源（豊かな自然やかっぱ伝説、油すましの墓など）が豊富に存在している。 ・ 史跡等（栖本城址、円正寺、栖本諏訪神社、小ヶ倉観音、いげ神様（年神社）など）が多い。 ・ 文化伝統芸能への意識が高く、熊本県重要無形民俗文化財に指定されている地域伝統芸能（栖本太鼓踊り、栖本獅子舞、とったかところせいなど）が継承されている。 			
地区が抱える課題・困っていること			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化、人口減少、高齢化世帯の増加。 ・ 基幹産業である第1次産業の衰退。 ・ 地域づくりにかかるマンパワー不足。 ・ 地域資源の利活用が不足している。 ・ 高齢化により耕作放棄地が増えている。 ・ 生計が立てられる仕事が少なく、若者の流出が続いている。 ・ 町の行事や地区の共同作業など、人口減少や高齢化により難しくなっている。 			

◇◆◇ まちづくりの目標 ◇◆◇

<p>テーマ</p>	<p>みんなが主役！ 絆深まるまちづくり 『 ずっと、もっと、すもと 』</p>
<p>考え方</p>	<p>現存する豊かな地域資源を活かして、住民一人ひとりの主体的な取り組みを基本としつつ、地域住民総参加型のまちづくりを行う。高齢者の生きがいを創出し、健康で元気な高齢者と若者が協働することによって、これまで代々受け継がれてきた自然と歴史が育むところ豊かな栖本町を後世に継承していく。</p>

◇分野別に考えられる地区の現状や課題、特徴及び今後の方向性等と、課題の解決や特徴を伸ばすための基本方針

分野別	現状・課題・特徴・方向性等	基本方針
【A】 産業 経済	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地が目立つようになっている。 ・雇用の場の減少等により若年層が流出し、人口減少が進んでいる。 ・農業などの担い手が減少している。 ・有害鳥獣の増加による農作物被害が甚大。 	<p>○ゆたかな生活を創造するまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栖本の特産物を活かした新商品・アイデア商品の開発を進め、地域全体の活性化を図る。
【B】 観光 ・ 文化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源（史跡や遺跡）を活用し、知名度を向上させ、ツーリズムなどの交流事業に繋げていく。 ・地区に伝わる伝統芸能を継承する後継者が減少している。 	<p>○地域の特性を生かすまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守り継がれた地域資源を地域の魅力として町内外に発信し、訪れたい、住みたい場所にする。 ・継承・保存されてきた伝統行事・伝統芸能を地域住民の「誇り」として次世代へと繋げる。 ・夏まつりや冬物語を充実・発展させる。
【C】 地域 振興	<ul style="list-style-type: none"> ・年々人口減少が進み、少子高齢化に歯止めがかからない。 ・高齢化が進み、イベントへの参加が年々減少傾向にある。 ・リーダー育成や世代交代が進まない。 ・空き家が多くなり危険空き家の対策が問題となっている。 	<p>○心豊かで思いやりのある人がいるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント等は地域内の学校や各団体と連携・協力しながら実施し、継続させる。 ・スポーツデイの充実。 ・住みたくなる栖本の魅力を発信し、若い世代からの移住定住に繋げる。
【D】 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象に明治時代を体感する「寺子屋体験学習」を実施している。 	<p>○地域と学校が未来の大人を育むまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント等は地域内の学校や各団体と連携・協力しながら実施する。
【E】 保健・医療 ・福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者が増えており、孤立してきている。 ・高齢者の長寿を祝うため、敬老会を実施している。 	<p>○みんなで支え合い笑顔の輪をつなぐまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもと高齢者向けの事業を実施する。 ・高齢者が、住み慣れた地域でいつまでも元気に安心して暮らすことができるよう地域支援活動を推進する。
【F】 生活環境 ・ 防犯防災	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時の避難に不安がある。 ・安全な町を目指し、防犯パトロールなどを実施している。 ・きれいな町を目指し、一斉美化作業、河川清掃などを実施している。 ・河川敷など花木が不足している。 	<p>○地域住民自ら守り続けるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが安全安心に暮らせるまちづくりを目指し、自主防災組織と連携を図りながら防災訓練等を継続して実施する。 ・豊かな自然環境保全のため、河川や道路等の美化作業を実施する。また、河川敷や道路敷等を活用し花木等の植栽を行う。
【G】 都市基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や道路周辺が緑化されていて良好なまちなみが形成されている。 	<p>○暮らしやすい機能的なまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動により良好な景観を保つ。
【H】 総務・企画	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の核となる施設の活用が不十分である。 	<p>○施設を活用した魅力あるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栖本温泉を地域の魅力の核となるよう情報発信する。

栖本地区振興計画 行動計画

①引き続き実施する事業

分野別	事業名	具体的事業内容	目標数値	実施期間					実施主体	備考
				短期				長期		
				R8	R9	R10	R11			
A	オリジナルグッズ等製作販売	河童伝説や油すまし等を活かした既存商品（ストラップなど）の磨き上げ、栖本の地域資源を活かした商品「すもとのもの」を増やす。	・知名度の向上 ・継続的な生産・販売 ・商品数の増						振興会	産業経済
B	すもと夏祭り	お盆の帰省時期に合わせ、帰省客や地域住民の交流の場として開催し、地域の賑わいを創出する。	・年1回実施						振興会 各種団体	観光・文化
B	すもと冬物語	栖本温泉センター河童ロマン館等を拠点にした子どもから高齢者まで楽しめる冬のイベント（マルシェやイルミネーションのほか小中学生等のステージなど）を開催する。	・年1回実施						振興会 行政 社協 各種団体	観光・文化
B	里山散策ウォーク	地域内の自然や史跡、文化財を、「見て・感じて・学べる」ウォークイベントを実施する。（2コース）	・各コースを年1回実施						振興会	観光・文化
B	振興会情報のSNS・紙媒体等での情報発信	HP、SNS、かっぱ王国だよりなどにより、振興会の活動状況や事業への参加募集、特産品のPR等情報発信を行う。	・HP、SNSは随時 ・たよりは年1回						振興会	観光・文化
C	ふるさと会交流事業	ふるさと会（在熊・関西・関東）等との交流を継続し、栖本ファンの拡大を図るとともに、移住定住を促す。	・各年1回以上交流						振興会 行政	地域振興 ・教育
C	すもとスポーツデー	子どもから高齢者まで誰でも参加できるスポーツデーを開催し、スポーツに親しむとともに、町民相互の親交を深める。	・年1回開催						振興会 行政 地区 各種団体	地域振興 ・教育
C	スポーツ振興事業	町民の健康・体づくりの推進を図るため、スポーツデーやイベントに併せて、ニュースポーツを体験できるようにする。	・年1回以上開催						振興会	地域振興 ・教育
D	寺子屋体験学習	栖本小学生等を対象に明治時代の食事、生活、遊びなどを再現した寺子屋体験学習を1泊2日で実施する。	・年1回実施						振興会	地域振興 ・教育
E	敬老会	9月の第1日曜日に開催。70歳以上の高齢者を対象に長寿とご健勝を祝う。式典、演芸などを実施し、日頃会えない高齢者同士の交流の場とする。	・年1回開催						振興会 老人会	保健・医療 ・福祉
E	栖本版生活情報等サポート事業	栖本こころプロジェクトでの情報交換会等を行い、町内高齢者等向けに生活に役立つ情報を紙媒体で作成・配布する。	・情報交換会年1回以上 ・情報誌の作成						振興会 行政 社協	保健・医療 ・福祉
F	河川等環境保全事業	小中学生と地域住民による河内川の河川清掃等を実施する。また、ホタルが乱舞する期間は周知を行い、地域住民に地域の豊かさを知ってもらう。	・春秋の2回実施						振興会	生活環境 ・防犯防災
F	すもと花つなぎ事業	コスモスやヒマワリ等を栽培し、きれいな生活環境を整備する。併せて、各地区の観光スポットを情報発信し、誘客につなげる。	・年1回実施						振興会	生活環境 ・防犯防災
F	栖本町一斉美化作業	6月と10月に実施。地域住民全員でゴミ拾い等の美化作業を実施する。	・年1回以上実施						行政 振興会	生活環境 ・防犯防災
F	栖本地区防災訓練	梅雨前の5月に実施。各地区の自主防災組織と消防団とが協力して実施する。	・町民の1/3以上の参加						振興会 行政 消防団	生活環境 ・防犯防災

※実施主体は「主体的に事業を実施する団体(振興会、区、PTA等)」を記載。